

平成 24 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300327		
法人名	有限会社 誠愛会		
事業所名	グループホーム SAKURA	ユニット名	
所在地	宮城県栗原市若柳字川北南砂押45		
自己評価作成日	平成25年3月7日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームSAKURAは、伊豆沼や栗駒山など自然あふれる環境のなかで、多くの皆様に支えていただきながら今年で開所から11年目を迎えました。新しく施設を整備することが多いグループホームのなかで、当施設は既存住宅を活用した造りになっております。そのため施設面では他の施設とは見劣りする部分は多々ありますが、その分家庭的な環境の提供ができる強みを活かし、一つ屋根の下での一つの家族のような生活スタイルをベースに、温かみのある介護支援の提供の実現に努めております。日頃から支えてくださる方々に感謝の気持ち“ありがとう”を大切に、笑いあり、涙あり、時には怒っても最後は笑う、その日々を送りながら暮らす利用者様の表情、言動に着目していただければと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームSAKURAは、JR石越駅に近く若柳金成ICからも10分ほどの静かな住宅地の中にある。開設してから11年目となり、地域にしっかり根を張っている。世代間交流の中学生の福祉体験等を含め町の行政との交流も積極的に行っている。インターネットの情報を活用した頭の体操や座ったままの身体の体操は認知症の緩和に役に立っている。初めは帰りたい願望の激しい人や、体力の衰えていた入居者も現在は不思議なくらい常態に戻り、仲間と笑顔で暮らしていると管理者は胸を張る。一つ屋根の生活は家庭的であると評されている。これは家族アンケートからも伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 グループホーム SAKURA)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年度スローガンを掲げて、共有し実践につなげています。	職員で創った理念、「利用者・家族・地域の皆様に感謝の気持ち」を表した「日々勉強いろいろ教えて頂き有難う、私を頼っていただき～、日頃から優しく見守っていただき～」の三つの有難うを掲げて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が地元で地域とのつながりがあり、事業所自体が地域の一員として交流している。	管理者自身が昔から当町内会で生活してきた。事業所もその延長上にあり、地域の情報発信基地になっている。若い職員が消防団員として活動している。清掃・祭り・お茶会・公民館の催し物等にも参加交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催されるお茶会に参加をし、事業所の説明や、地区担当の民生委員へアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームの入所・退所状況の報告を行い、推進委員による企画を利用者様に提供していただいている。	区長、地域住民代表、家族代表、民生委員、地域包括職員が参加している。ホームの現況報告や震災後の経過状況報告があり、区長からは災害発生時すぐに駆けつけて協力したいとの心強い発言があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告を定期的に提出しね協力関係を築いている。	地域包括支援センターから緊急の入所要請に対応した。健康教室の参加、市主催の敬老会に出席した。生活保護の入居者の相談、中学生の福祉体験学習等、担当窓口とは密に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全ての職員が身体拘束をしないケアの実践をしている。	外出傾向の人を把握している。近隣の理解もあり、過去に数回の連絡を頂いた。日中の鍵は掛けないのは勿論のこと、職員は身体拘束の弊害等をマニュアル等でよく理解している。当初頻繁に無断外出した入居者も現在は落ち着いて生活している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内にポスターを掲示し虐待の防止の徹底をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等に参加していただき、意見や要望を気軽に話せる機会を設け、運営に反映させている。	ホームの玄関に意見箱がある。行事参加の時に家族から意見、要望を聴いている。第三者委員、運営推進会議の意見要望も取り入れている。外食やバス旅行での遠出の事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、意見交換をおこなっている。	月に1回のミーティングでケアの状況の意見交換の他、意見、要望を聴き、職員の育成の資格取得等の支援に繋がった。職員の勤務体制も本人の希望を取り入れている。夜中の入居者の言動の対応等の提案があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境や情景の整備につとめ、スキルアップした職員には昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部及び外部研修をし、OJTに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会との研修を通じ、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活に慣れていただくため個別に対応し、本人のペースに合わせて不安を取り除く支援をしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初期の状態を毎日連絡をとり良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々のケースに合わせ、できる限りニーズに対応し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭の延長と考え、出来る範囲で手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を取り合い、良好に関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの本人の生活を尊重し、馴染みの人との関係が途切れない様支援し、定期的な墓参り等の支援に努めている。	馴染みの美容室、スーパーでの買物、定期的な墓参等の支援。民生委員の訪問が馴染みの関係になっている。震災で2名の方の家が倒壊し、盆正月に帰れなかったが、ホームが馴染みの場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立することなく職員が会話等の間に入り、良好な関係に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、来所していただいたり、訪問したりして関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	通院や買い物、理美容等は完全に個別に対応したい。	生活歴や家族から、誕生会の食事の席で本人の思いをそっと聞き出す。「法事に行きたい」の思いを引き出し、出席し、家族と本人から感謝された。現在入居者の希望として、一泊旅行を企画している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長年の生活歴や顔馴染みの生活環境を考慮し、サービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化に気づき、気配りをし、観察を怠らず現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員ミーティング等で十分話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	個々に必要な支援を盛り込み短期、長期の目標を設定し計画している。家族はここで永く、穏やかに過ごさせたい思いがあり、協力医の意見を聴いてプランを作成し、3ヶ月ごとに評価し見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら統一したケアができるように介護計画の見直しをし、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人又は家族の希望があれば対応していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや地域の各機関を把握し必要に応じ、協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように支援している。	2名はかかりつけ医、他の入居者は協力医を職員の同行で受診している。診断結果は家族に報告し記録とて残す。定期的な往診(歯科含)も可能で、看護師の協力関係もあり入居者は安心して生活している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診、日常の状態の気づきを事業所協力衣料機関、又は、個々の医療機関の看護職員と相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、その状態を常に把握するため情報を交換し、早期退院出来るように病院関係者と良好に保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアに対する指針をつくり取り組んでいる。	指針書が整備されている。医師の判断と助言により家族が望む話し合いをしている。過去に5件を看取っている。協力医療機関と連携体制が確立され、365日24時間対応が可能である。家族と入居者の大きな安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署等の研修を受け、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	男性職員が地域の消防団に参加し、日頃から防災に努めているほか、災害対策として消防署の指導を受け、定期的に避難訓練をおこなっている。	区長の支援で近隣の協力体制がある。若い職員が地域の消防団に参加している。避難訓練は消防署の指導を受け夜間想定で住民参加で実施している。震災後は発電機の他に備蓄、備品の充実を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけることがないよう、細心の注意を払いつつ、方言を交えたごく当たり前の会話を通じ、生まれ育った地域での生活の継続支援を実践している。	呼び名はさん付けで、居室の出入りは本人から了解を得ている。失禁等の気配を感じたら何げなく周りに気付かれないよう対応し、言葉掛けは目線を合わせて静かに耳元でしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話がし易い環境を阻害することがないよう、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせて希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	偏った服装にならないよう注意し、おしゃれを楽しむことができるよう要望を聞き実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	風土に根付いている食文化をベースに好みや要望を取り入れたメニューづくりをしている。また食前・食後の準備等は利用者様と職員で行っている。	食事は最大の楽しみ、栄養士のチェックを受け四季折々の新鮮な食材を使い、誕生日や行事には寿司屋、ファミレス等に出掛ける。郷土食のハット汁等も人気。食前食後の準備片付けは入居者と職員で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に留意し、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医院の指導を受け適切に口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの記録を基に排泄の自立にむけて支援している。	個々の排泄記録からパターンを把握し、誘導による自立排泄、夜間はオムツの人もいるが、オムツの使用はできるだけ減らし、自立に向けた支援をしている。オムツから布パンツに改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との情報交換し、飲食物の工夫や運動への働きかけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングを見ながら楽しく入浴できるように支援している。	個々のタイミングでいつでも入浴できるが、現在は午前中に落ち着いている。毎日疲れる為一日おき入浴や足湯だけの時もある。色や香りを楽しむ菖蒲湯やゆず湯も人気がある。幸い入浴拒否の人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態を観察し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が完全に管理し確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割を発揮できるように働きかけ、外出等で気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物の手伝いをさせていただいたりし、支援している、又、家族に協力をいただき出かけられるように支援している。	暖かくなるこれからは戸外に出てホーム周囲の散歩を心待ちにしている。本人の要望で法事に参加したり、敬老会には、系列ホームと合同で天平の湯、遠出の定義山、ふたごの湯、伊豆沼等、月に一度は出掛ける。外食や買物等の外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はしていないが「お金を持つ大切さ」については希望や力に応じて柔軟に対応し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や歳時記に合った飾りつけをし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	換気は良好で空気のもどきも無く快適で、天井のサーキュレーターが活躍している。窓からの採光も明るく、居間からは四季の変化が味わえる。テーブルは車椅子対応に配慮した高さの物が用意され、季節の花や写真が飾られ、置き物も昔の家具調で落ち着いた感じ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの座る位置などを工夫し居心地の良い空間をつくれるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みの物を持ち込んでもらい、居心地の良い空間を制限なく作って頂けるようにしている。	部屋は清潔に保たれ、壁には家族の写真や、手芸の書き物が飾られ、整理された衣装ケースには手書きのラベルが貼られている。仏壇等を持ち込んだ入もありプライベートゾーンが守られ居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自宅に戻られても安全な暮らしが出来る様に必要な場所に必要な手すり等を取り付け工夫している。		